前進？それとも後退？

北中がスタートした令和元年度は、現在の三年生が一年生でした。二年生と一年生は小学生でした。したがって、当時のことを覚えているのは三年生だけです。しかし、その三年生もすべて覚えているとは限らないですよね。三年前、私は校長として、次のことにこだわって瑞浪北中をスタートさせました。

次の文章は、令和元年度に発行された「学校だより」から抜粋したものです。

「生徒たちが現在取り組んでいることは、『言語環境の改善』です。生活委員会が中心になって活動が進んでいます。

『はい』」という返事が『うおーい！』、『おはようございます』というあいさつが『ざっす！』、『ありがとうございました』という礼が『あしたぁ！』などというように、元気はよくても敬意や優しさが伝わらない荒い言葉を改善しようと取り組んでいます。最近では次の段階に入っており、『うざい』『きもい』『死ね』『ふざけんな』などの、相手の心を深く傷つける言葉をなくそうと頑張っています。」

当時は「校舎が日本一なら、学校も日本一になろう」を合い言葉にして、生徒と職員が同じ方向を目指しました。その一つが言語環境でした。

三つの中学校が一つになるということで、仲間関係を大切にして学校生活を送りました。人と人が関わる時に最も大切なのは「言葉遣い」です。礼儀をわきまえない乱暴な返事やあいさつ、そして、相手の立場や思いを無視した罵詈雑言（ばりぞうごん）が飛び交う学校では安心して生活できません。「日本一の学校」にはほど遠いと言えます。

統合三年目。人が入れ替わり、言語環境が乱れ始めていると感じるのは私だけでしょうか。一、二年生は過去を知らないのでわからないと思いますが、三年生はどうですか。私と同じような感覚でいてくれると、うれしいのですが。

小学生が礼儀をわきまえなくても「子どもだからしょうがないなあ」と大目に見られることが多いでしょう。しかし、中学生が礼儀をわきまえなかったら、「中学生にもなって礼儀も知らないのか」と厳しい目が向けられそうです。同じように「中学生にもなって、人の気もちが考えられないのか！」という声が世間から聞こえてきそうです。

「中学時代は巣立ちの準備をするところ」という話を、私はどの学年にもしました。覚えていますか。これまでの北中の先輩たちの歩みの一端を知った今、自分たちの言語環境をぜひ見直し、だれもが気もちよく生活できるようにすべきです。全校的に「言語環境を見直そう」というタイムリーな「うねり」が生まれてほしいですね。

（六月三日　記）